

普及活動情勢報告（令和4年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

有機栽培技術を高めていこう！ ～有機栽培ショウガ現地検討会～



今後の課題を話し合う参加者

9月26日、有機農業指導員を招き、ショウガの有機栽培を行っている3ほ場において現地検討会が開催されました。参加者は9名で、有機栽培を実践している生産者に加え、就農前で有機栽培を目指している方の参加もありました。

有機農業指導員からは、有機JAS法の視点や技術的課題などへのアドバイスをいただき、参加者は今後の管理に活かすよう検討していました。また、有機栽培では土壌病害発生後の対処が難しいことから、リスク排除による防除対策が課題との議論になりました。

普及所は、今後も生産者間の情報共有に努めるとともに防除対策の確立に向けて支援していきます。

高品質なニラの安定生産にむけて ～ニラ青壮年部会現地検討会～



現地検討会の様子

10月11日、JA高知県四万十ニラ青壮年部会の現地検討会が開催され、生産者12名が参加しました。

普及所からは、品種比較を行っている実証ほの状況や、ハウスの温度管理について説明しました。

生産者からは、「次作の品種選びの参考にする」や「温度管理をしっかりしたい」など前向きな声が聞かれました。

普及所は、今後も若い生産者の多いニラ青壮年部会に対して、JAと協力して、様々なテーマで勉強会を開催していきます。

来年度の品種選定に向けて ～北幡地域シシトウアンケート調査～



アンケート調査の様子

9月中旬から10月にかけて四万十町北幡地域のシシトウ生産者を対象に来年度の品種選定に向けたアンケート調査を実施しました。

アンケートでは、今年度栽培されている品種や来年度はどの品種を栽培したいか、また、これからの経営についても併せて調査を行いました。

北幡地域では長年‘葵ししとう’を栽培する農家が過半数を占めていましたが、今年度をもって種子の販売が終了されます。そのため、来年度は多くの人が栽培経験のない品種を栽培していくことになる予想されます。

普及所は、JAと協力し農家がシシトウ栽培に対して不安がないようにサポートし、産地の維持発展に向けて支援していきます。

集落営農の組織間連携を考える ～高南地域集落営農組織代表者連絡会～



普及所からの情報提供の様子

10月20日、令和4年度 高南地域集落営農組織代表者連絡会が開催され、集落営農組織の代表者17名が参加しました。会では集落営農組織間連携の事例紹介や町・JAによる補助事業の説明などがありました。普及所からは、水稻栽培の省力化・軽労化技術として、法面除草対策や高密度播種苗移植栽培について紹介しました。

参加者からは、「高齢化、規模拡大に伴い省力化技術は必須となる。できることは取り組んでいきたいので、最新情報の提供をお願いしたい」といった声が聞かれました。

普及所は、今後も集落営農組織運営に有効な省力化・軽労化技術についての情報提供とともに、実行支援にも取り組んでいきます。

農福連携の推進に向けて意見交換 ～四万十町農福連携推進協議会～



農福連携推進協議会の様子

10月3日、今年度第2回四万十町農福連携推進協議会を開催し、障害者就労支援事業所、社会福祉協議会、町障害者就労・生活支援センター、町役場、JA、普及所等、Web参加も含め20名が出席しました。

普及所は事務局として、新規加入した2事業所の紹介の後、今年度の体験研修や農福連携フォーラムなど事業計画を提案しました。

意見交換では、各事業所の現状や課題に対して、今回から助言者として参加の有識者から県外の事例を参考にアドバイスがあり、活発に意見が出されました。

普及所では、今後も協議会会員と協力しながら、農福連携を推進していきます。